

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>



題名 「1年楽しい平井北」

♥作品解説♥

夏秋冬、どの季節も魅力がいっぱい。
1年中の楽しい行事を詰め込みたいと話合っ
て作成しました。
(スマートキッズプラス平井北)

地域で進めるユニバーサルデザイン ～子どもが過ごしやすく、学習しやすい環境づくり～

中村 雅子

今年5月発行の「きらっと48号」では、「できることから始める性教育～子どもの健やかな成長を願って～」というテーマで、スマートキッズの取り組みを紹介しました。その後も、包括的性教育の子ども向けトライアルの教材づくりや指導者研修のプログラムづくりを通して、どうしたら、子どもが過ごしやすく、学習しやすい環境づくりができるかを研究しています。

今回は、地域で進めるユニバーサルデザインについて述べてみたいと思います。かつて、私は、多くの方々と共に地域創生やユネスコ・アジア文化センターの活動にかかわってきました。そのような経験から、地域の交流や文化振興は、障害者が安心して暮らせる地域づくりに欠かせないと確信しています。

10月は、各地で祭りが開催されています。私の勤務地だった池袋の小学校では、「御会式」をはじめ種々の地域文化を教材化し、伝統を受け継ぐ地域の方々に教えていただき、すべての子どもが、年間を通して地域文化を学びました。このような日々の積み重ねが、祭りの日に象徴的に表れ、老いも若きも、子どもも大人も、そして障害があってもなくても、だれもが地域の仲間として楽しみ、つながる関係を生み出していました。

先日、日本のふるさととも言われる岩手県の遠野まつりに伺った際にも同じことを感じました。台風の影響で終日雨でしたが、障害のある子もない子も共に、素晴らしい伝統の踊りや神楽を披露してくれました。地元の方に伺うと、地域の小中学校で、練習を重ねて伝承しているということでした。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、公的機関だけでなく、また個人や団体、営利や非営利などにかかわらず、すべての事業所に合理的配慮の提供が義務化され

ました。「すべて」ということは、地域全体ということです。つまりは、地域全体でユニバーサルデザインを実現するという事です。こうした意味でも地域の伝統文化を再評価して、子どもたちが地域でつながり、分かちあう関係づくりをみなさんと共につくっていきたいと思います。



遠野祭り

<プロフィール>

スマートキッズ発達支援研究所 所長 中村雅子

私は、全国情緒障害教育研究会1会長を5年間、設置校の校長を15年間務めたのち、大学等で後進の育成に携わってきました。その後、国立成育医療研究センター2の臨床研究員として、プレコンセプションケアの研究にかかわるとともに、障害のある子どもたちの心とからだの健康づくりの活動を行っています。(※1全国情緒障害教育研究会は、1968年、自閉症児親の会全国協議会の結成と同年に創立された研究組織です。※2国立成育医療研究センターは、受精・妊娠に始まり、胎児期、新生児期、乳児期、学童期、思春期を経て次世代を育成する成人期へと至るライフサイクルに生じる疾患に関する医療と研究を推進するために設立されました。)

こうした活動の中で、多くの保護者の皆様と出会い、率直なご意見を伺ってきました。その多くが、障害のある子どもが、卒業後、就労し、社会の中で人とかわり、安全に生きていくために、十分な教育ができていだろうかという不安でした。当研究所は、教育、医療、心理の経験豊かな専門家が集まり、このような問いと真摯に向き合い、心もからだも健康で幸せに生きていくために有効な支援プログラムの開発と活用法を研究しています。

<本の紹介>「プレコンセプションケア」(メジカルビュー社)2024年4月1日発行

編集:荒田尚子、三戸麻子、岡崎有香。中村は教育現場の取り組みについて執筆しました。